

大崎町出身 和田讓治騎手



「所属する大井での開催中に勝
ててホッとしている。その日に
決めてやろうと思っていたので
勝って嬉しかった」

今年8月19日（木）の第8回大井
競馬4日目第8レースで、地方競馬
通算1000勝を達成した和田讓治
さんに、2日後の21日（土）に電話
取材を受けていただきました。けが
を乗り越え達成した1000勝。そ
の強さの秘訣とは：

讓治さんは地方競馬の大井競馬場
（東京都騎手会）に所属している、
本町出身の騎手。元ジョッキーで
あった父親の清文さんが横瀬で競走
馬の育成牧場を経営しており、子ど
もの頃から馬が身近な存在でした。
ジョッキーになろうと決めたのは、
小学校5年生のとき。父が牧場で手
掛けた馬が桜花賞に出走するのを父
と一緒に見にいったことがきっかけ
でした。中学校を卒業後、栃木県に
ある地方競馬教養センターで2年間
の厳しい訓練を積み、卒業後すぐの
平成14年4月にデビューし、7月に
18戦目で初勝利しました。

※地方競馬とは…競馬場がある地方自治
体や、地方自治体から構成される一部
事務組合が主催で開催している競馬
他には、日本中央競馬会（JRA）が
主催の「中央競馬」がある。

当初は乗れない日々。
休日を返上し信頼関係を築いて
いった。

デビュー当初は大井競馬場の赤間
厩舎に所属、名門だったため有名
な騎手ばかりが騎乗し、讓治さんは
5日間の開催で3・4回程度しか騎
乗できない日々でした。そこで、清
文さんが知人に相談し、大井競馬が
休みの日には浦和競馬の朝の調教を
手伝えることになりました。休日は
早朝から調教を手伝い、調教師や厩
務員、そして馬との信頼関係を築い
ていきました。すると、浦和開催の
レース時に騎乗依頼が増えていき、
結果も出始めます。大井開催での騎
乗も増えていき、順調に勝利を積み
重ねていきました。

長い療養期間。

「絶対、復帰してやる！」

しかし、平成26年のレース中に落
馬し、左大腿骨骨折の大怪我を負い
ました。3度の手術を受け復帰に掛
かった期間は1年8カ月。「不安は
なかった。絶対復帰してやろうとい
う気持ちでいた」と強い気持ちで復
帰した讓治さんは、平成29年9月に、
目玉となる大きなレース「重賞」で
初勝利を果たしました。